

[006] 学生法政論集表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/21928>

出版情報：学生法政論集. 6, 2012-03-23. 九州大学法政学会
バージョン：
権利関係：

編集後記

論文は、地道な資料の収集と分析が生命線。しかし、何かを変えたいという問題意識を欠けば、単に勉強したという自己満足に過ぎないので、決して公表して人に読ませないこと。(K. T.)

今年は昨年より、やや応募作が増えました。論文を投稿していただいたみなさん（掲載されなかった方々も含め）、ご苦労さまでした。また論文作成支援にご尽力いただいた教員のみなさんにも、感謝します。学部の、しかもできるだけ早い段階で、レポートではなく「論文」を書くことは、講義やゼミへの臨み方をよい方向に変えるのではないかと思います。さらに、より多くのみなさんが、次年度以降も論文執筆に挑戦してくれることを期待します。(爺)

専門的な内容を文章で表現するのは、3歩進んで2歩下がるような作業の連続だと思います。苦しいですが、結果いかんにかかわらず、そのような経験自体がこの上ない財産になっているはずです。みなさんの今後のご活躍を期待しています。(IR)

皆さんが自分の素直な関心から出発して論文を書いていることが伝わってきて、楽しく拝読しました。ただ、そのような自分の関心を第三者にも共有させ、かつ、第三者を説得できるような論文を書くには、もう少し訓練が必要と思われるものも散見されました。自分の関心と立論を、どこまで読者に伝わるように明快に説明できるかが次のステップでしょうか。書くことと思考することは一体で、手探りでも、まとまった長さの論文を何度も書いているうちに思考力もついてきます。このような機会を逃さず、どんどんチャレンジしてください。(K)

法学・政治学の論文にワタシはあまり出てこない。法・裁判所・政府・国などの抽象概念か、行為者の職務・地位・役割などが主語の常連さんだ。それはそれで仕方がないことだけど、それを論じているこの私は、今どこから語っているのかを、完全に棚上げできるわけでもない。そうした思いが行間から伝わってくる論文が読みたいですね。(AE)

論文の執筆は日々の研究発表やレポートとは違って、学部生にとってはかなり難しい作業になるかと思います。しかし、これにチャレンジすることによって、今までに経験できなかったような成果と充実感を味わえることとなります。今回も、かなり努力のあとの見られる作品が多かったようですが、これからも皆さんの積極的なチャレンジを期待します。(MMK)

『学生法政論集』第7号（2013年3月発行予定）の募集につきましては、「九州大学法政学会ホームページ」および「法学部ホームページ」にてお知らせします（6月下旬予定）。